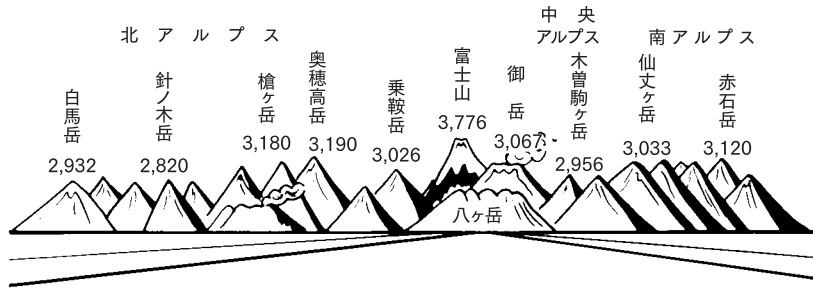
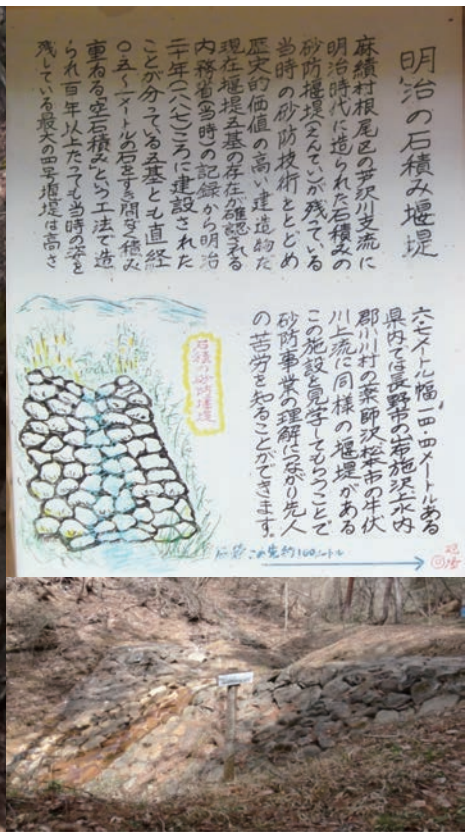


第 52 号

平成25年5月



砂防ニュースレター「長野」



麻績村新沢に現存する石積み堰堤 (明治20年頃国直轄施工)

目次

「土砂災害から人命と地域を守る砂防会議」開催・要望活動	2	焼岳火山噴火対策及び深層崩壊に伴う土砂災害対策の推進	9
平成25年度 砂防関係予算	3	深層崩壊に伴う土砂災害対策の推進	10
「第53回砂防および地すべり防止講習会」開催される	4	大規模土砂災害に備えて	11
「土砂災害防止に関する作文・ポスター 国土交通事務次官賞受賞	4、5	着任挨拶：利根川水系砂防事務所長	12
地域独自の警戒避難体制づくり	6	着任挨拶：富士川砂防事務所長	13
平成24年に完成した砂防堰堤	7	着任挨拶：天竜川上流河川事務所	14
浅間山直轄火山砂防事業の推進	8	着任挨拶：松本砂防事務所長	15
		平成25年度砂防課人事異動について	16
		長野県治水砂防協会主な行事経過・予定	16

「土砂災害から人命と地域を守る砂防会議」開催される



平成24年11月20日「土砂災害から人命と地域を守る砂防会議」が砂防会館別館シェーンバッハ・サボー（東京都千代田区）で開催されました。当日は全国から会員等約800名が参集し、本県からは佐々木会長をはじめ約70名（内29名の市町村長の皆様）の会員、関係者に御出席いただきました。

会議に先立ち、国土交通省 南砂防部長より「里山砂防はおもしろい」と題して特別講演が行われ



ました。続いて、砂防会議は、綿貫全国治水砂防協会会長の挨拶で始まり、本県の牛越大町市長より「はじめに砂防ありき」と題して意見発表が行われました。（詳細は「砂防と治水」2月号掲載）引き続き奈良県吉野郡十津川村更谷村長より「平成23年台風12号豪雨災害」と題して意見発表が行われました。その後の意見交換では、貴舟大桑村長が、直轄砂防の区域に編入され、計画的に砂防堰堤が整備されるようになってからは、尊い命が失われていない、及び砂防現地視察へ参加した事が貴重な経験になったとの意見を述べられました。その他、徳島県上勝町長、大阪府河南町長、福井県高浜町長、静岡県伊豆市長からも積極的な発言があり会場は熱心に拝聴していました。最後に「砂防会議のまとめと提言」が発表され、賛同されました。

要望活動の実施

砂防会議を終え同日午後、佐々木会長をはじめ役員、会員関係者により要望活動を行いました。

当協会の要望書を国土交通大臣室において、羽田大臣へ佐々木会長より手渡されました。

大勢の町村長の皆さんに御参加をいただき、この場をお借りして御礼申し上げます。



平成25年度 砂 防 関 係 予 算

平成25年度の本県砂防関係事業の当初予算は、補助公共事業費が94億円余で対前年比1.01、県単独公共事業が4億6千万円余で対前年費0.97となっており、災害関連事業を加えた全体事業費は110億円余、対前年比1.00となっています。

なお、平成24年度2月補正予算において、経済対策として補助公共事業費で28億円余を計上しており、平成25年度当初予算と併せて122億円余、対前年比1.31となります。

(単位：千円)

事業名	H24.2月補正 (経済対策分) (A)	H25年度 当初予算 (B)	(A)+(B) (C)	H24年度 当初予算 (D)	対前年 当初比 (B)/(D)	H24.2月 補正含み (C)/(D)
○砂防総務費	0	321,219	321,219	372,540	0.86	0.86
○補助公共						
□砂防費	1,707,000	5,591,444	7,298,444	5,647,300	0.99	1.29
□地すべり対策費	678,000	1,626,000	2,304,000	1,899,100	0.86	1.21
□急傾斜地崩壊対策費	450,500	2,202,000	2,652,500	1,822,200	1.21	1.46
小計	2,835,500	9,419,444	12,254,944	9,368,600	1.01	1.31
○災害関連事業						
□砂防費		300,000	300,000	300,000	1.00	1.00
□地すべり対策費		300,000	300,000	300,000	1.00	1.00
□急傾斜地崩壊対策費		200,000	200,000	200,000	1.00	1.00
小計	0	800,000	800,000	800,000	1.00	1.00
○県単独公共						
□砂防費		243,335	243,335	252,531	0.96	0.96
□地すべり対策費		93,500	93,500	96,426	0.97	0.97
□急傾斜地崩壊対策費		127,400	127,400	131,593	0.97	0.97
小計	0	464,235	464,235	480,550	0.97	0.97
○砂防受託費		2,200	2,200	15,500	0.14	0.14
計	2,835,500	11,007,098	13,842,598	11,037,190	1.00	1.25

～ 平成25年度主要事業 ～

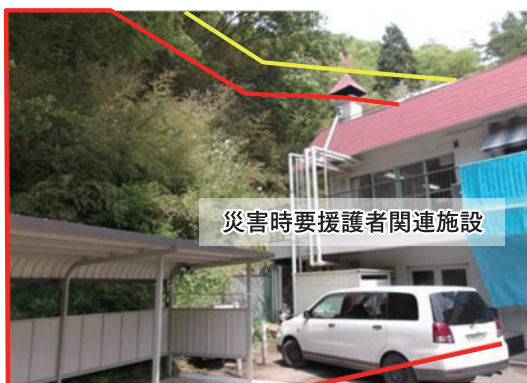
「災害時要援護者・避難所をまもる総合的な土砂災害対策について」

今年度を初年度とする長野県総合5か年計画において達成目標を設定して、災害時要援護者・避難所をまもるため、ハード対策とソフト対策が一体となった土砂災害対策を推進します。

【達成目標：土砂災害特別警戒区域内に立地する55施設の土砂災害対策着手数 19(H25)→55(H29)】

《ハード対策》

土砂災害時に人的被害の割合が高い災害時要援護者関連施設や災害時の防災拠点となる避難所をまもるハード対策を推進します。



災害時要援護者関連施設

《ソフト対策》

土砂災害防止法に基づく基礎調査の実施、土砂災害警戒区域等の指定や地域の特性に応じた防災訓練などを実施し、警戒避難体制の整備を支援します。



防災訓練
(施設入所者の避難誘導訓練)

第53回砂防および地すべり防止講習会開催される

平成25年2月21日、22日の2日間に、(社)全国治水砂防協会主催のもと、「第53回砂防および地すべり防止講習会」がシェーンバッハ・サボーにおいて開催されました。

主催者挨拶では、岡本理事長より「本講習会の狙いは、世界の最先端を行く日本の砂防について、国土交通省の大野砂防部長をはじめとして砂防部幹部の方々を講師として招き、ダイナミックに動いている砂防行政や技術等を伝えていただくことにあります。」と挨拶されました。引き続き、



菊川国土交通省技監が来賓挨拶され、その後、赤木賞受与式が行われ、受賞者である政策研究大学院大学特任教授池谷浩氏から「土砂災害から命を守るためには何が必要か！」と題して特別講演が行われました。

講演プログラムでは、大野砂防部長の講義を皮切りに、保全課鈴木課長補佐、阿蘇市佐藤市長、妙高砂防事務所上原所長、利根川水系砂防事務所安藤調査・品質確保課長、牛伏鉢伏友の会加藤代表の講義がありました。



2日目は、秋田県仙北市立生保内小学校伊藤教諭、砂防計画課吉野課長補佐、国土交通省都市防災推進室 吉田企画専門官の講義が行われました。このように、土砂災害対策の第一線で活躍する皆様による中身の濃い講義を聴講する大変貴重な機会を得ることが出来ました。(当協会からは24名の会員市町村職員が参加)

「土砂災害防止に関する絵画・作文」国土交通事務次官賞受賞

【絵画（小学生）の部 受賞作品】



中村勇太 さん
伊那市立伊那東小学校 5年



【作文（小学生）の部 受賞作品】



『人事ではない土砂災害』
才教学園小学校 5年 三宅 至さん

ぼくは毎年夏休みに塩尻のおじいちゃんとおばあちゃんの家へ行きます。

ある日、急に雨がザーザーふりだしました。あわてて家に入るとおじいちゃんが、「昔、こんなふうに雨がふって大変になったことがあったな。」と、言いました。ぼくはそれを聞いて、その大変だったことをもっとくわしく知りたいと思いました。おじいちゃんにくわしく聞いてみると、平成16年、ぼくが3さいのころ、おじいちゃんとおばあちゃんの家近くの矢沢川が台風の時にあふれてしまいました。理由は、はげしい雨で土砂がくずれて流れてきて川にたまってしまったことと、土砂がくずれたことで木がたおれて流されてきて川をせき止めてしまったからです。ゆか下しん水になってしまった家もあると言っていました。あふれた矢沢川より山の方に住んでいる人は仕事などで町へ行く人が町へ行ける道は軽自動車一台しか通れない道だけになってしまいました。

そして、この災害から2年後、平成18年、ぼくが5さいのころの梅雨の時にまた矢沢川で同じようなことがありました。おじいちゃんはその時区長だったのでおじいちゃんたちは市役所に相談をしに行きました。市役所はおじいちゃんたちにたのまれて県庁にたのみました。そして県庁は国にたのんで税金で80×80mの沈砂池を作ってくれる事になりました。

その時は工事の業者の人達だけでなく村の男の人も手伝い、女の人もご飯を作ったりと村全体で協力したと言っていました。ぼくはおじいちゃんの話聞いた後、その現場に行きました。まずは土砂のためにあふれてしまった矢沢川に行きました。矢沢川は高さが3mくらいではばが2mくらいなのにあふれるというのはすごいがいでした。もう土砂は残っていなかったけれどたくさん土砂がたまっていたんだと感じられました。そして次に土砂や木が流された所へ行きました。おじいちゃんはその所で「おじいちゃん木がバタバタおれているところを見たんだよ。」と、木がなくなっている所を見つめながら言いました。ぼくはその木がない場所のひろさからどれだけ木がぬけたかを考えてゾクッとしました。そして最後に沈砂池を見に行きました。すごく広くて少し土砂と木がたまっていました。おじいちゃんはその時うれしそうな顔をして「この沈砂池ができてからこの五年間一回も矢沢川で土砂などが、たまっあふれたひ害はないんだよ。」と、言いました。そして帰り道にぼくは矢沢川があふれた時にこの道しか通れなかったんだなあと思いながらあふれた時使った町へ行けるゆいいつの道を通りました。その時おじいちゃんが「軽自動車が昔は一台しか通れないはばだったけれどおじいちゃんが区長の時、道をひろげたんだよ。」と、言いながらむこうをゆび指さしました。そこを見ても自動車が二台すれちがっていました。ぼくはおじいちゃんに「前は軽自動車を持っていなかった人は歩いたり自転車しかあふれた時はせますぎて通れなかったの。」と、聞くと「そうだよ、みんな不便だったんだよ。」と、こたえてくれました。ぼくはおじいちゃんに土砂がくずれたためにあふれた矢沢川のことをいろいろ教えてもらってテレビでしか土砂災害のことを聞いたことがなかったけれど近くで災害がおこっているということを知って土砂災害は人事ではないということ学びました。土砂災害は人事ではないことをつねに心に入れておきたいと思いました。

地域特性に配慮した警戒避難体制づくり

近年、土砂災害により、生命にかかわる甚大な被害が全国各地で発生していることから、長野県では、防災研究が専門の群馬大学大学院片田敏孝教授の指導のもと、「地域特性に配慮した警戒避難体制づくり」をモデル地区において進めています。市町村と連携し、地域の皆さんが主体となって土砂災害への日頃の備えについて考える取組を進めています。

1. これまでの取組（平成22年度からモデル地区での取組を開始）

平成22年度 佐久市苦水地区
平成23年度 青木村木立・洞地区
平成24年度 長野市信更町田野口区
平成25年度 生坂村において予定

2. 取組内容



①片田教授による防災講演会で土砂災害に対する知識を習得



②住民懇談会を行い、危険な箇所、災害予兆現象、避難場所等を整理して防災マップを作成



③住民懇談会で作成した防災マップ



独自の避難基準の確認
ワンカップを利用した簡易雨量計で基準雨量を確認



独自の避難基準の確認
河川水位の上昇を確認

④住民主体の避難訓練



自主避難

区長は住民からの連絡を受け自主避難を判断する。
区長から自主避難の連絡を受けた住民は、近所に声を掛けながら定めた避難所へ避難する。

3. これからの取組予定

これまで、モデル地区での取り組みに参加された住民の皆さんからは、住民懇談会で地区内の土砂災害の危険状況を確認したことにより、自ら取り組みを継続していこうといった防災意識の向上が感じられました。

モデル地区での取り組みの継続、他地域への取り組み波及のために、砂防課では職員研修会やマニュアル作成などに取り組み、市町村の運営を支援し、きめ細かな警戒避難体制づくりを推進していきます。

住民懇談会の希望やお問い合わせ等ありましたら砂防課調査管理係までご連絡ください。

※モデル地区における地域特性に配慮した警戒避難体制づくりの取組はホームページにも掲載しています。
(<http://www.pref.nagano.lg.jp/doboku/sabo/digws/digws.htm>)